

# いつも一緒 富山のペットたち

犬や猫のおしっこが赤いと感じて、動物病院に連れて行ったことがある方もいらっしゃるでしょう。



橋本 晃聖  
Toyama Mitsuhiko

おしっこは、体の血液が腎臓でろ過されたもので、血液の老廃物と言えます。尿に関係する腎臓、尿管、膀胱、尿道といった泌尿器の異常だけでなく、血液が流れている全身の状態を教えてくれる重要な情報源です。尿の色は、動物の健康状態を知る手掛かりとなるのです。

尿が赤っぽい色になるのは、尿の中に「赤っぽい見える物質」があるからです。赤血球、ヘモグロビン(血色素)、ビリルビン(胆汁色素)などが代表的です。尿に血液中の赤血球が混ざった状態が「血尿」で、赤色が薄いピンク色に見えます。血尿は、腎臓から尿道口までの途中で出血しているサインです。排尿の様子を観察すれば、どこで出血しているかが分かります。血尿が排尿の始まりに見られるときは、尿道や生殖器からの出血が疑われます。排尿中に最初から最後まで血尿が出てくる場合は、腎臓や血液凝固異常による出血の可能性がありま

## 赤色尿

橋本動物病院長  
(南砺市一日市)



触診の時に赤色の尿を滴らせた膀胱炎の猫。尿の色は健康状態を知る手掛かりになる

# さまざまなきらびな病気が潜む

す。排尿の最後に血尿が確認できる状態を「ヘモグロビン尿」と言い、尿は褐色や暗赤色です。ヘモグロビン尿が現れる原因は二つ考えられます。一つは、尿の中の赤血球が壊れて赤血球内部のヘモグロビンが出る場合です。もう一つは、何らかの原因で血管内の赤血球が壊れ、血中に出たヘモグロビンが、腎臓から尿の中に排せつされるケースです。玉ネギ中毒や

肝炎の恐れも尿にヘモグロビンが混じって

症状が進行するまで気付かない病気もあります。まずは、普段の健康な時の尿の色と臭いを覚えておきましょう。尿の色がいつもと違う時は、自宅で採取した尿でも、すぐに検査すれば、かなりのデータが得られます。尿を持参して動物病院で受診されることをお勧めします。

この、黄疸症状が出ることもあります。急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、薬物中毒による肝障害、胆石などの可能性ががありますので、注意しましょう。

普段から観察をこれまで紹介してきたように、「赤っぽい見える物質」の種類や量によって、赤色尿の色はさまざまです。オレンジ色、濃い黄色、ワインレッド、コーラやしょうゆのような褐色など、赤色とはかけ離れた色の場合もあります。

量、臭い、出方、濁り、排尿の姿勢に注意しておく。泌尿器やそれ以外の病気を判断する際の参考になります。

今回は、個々の病気についてははな、飼い主さんが尿の異常を感じた時の観察のポイントを紹介しました。尿の採取法や治療法については、獣医師と相談していただきたいと思えます。

## 趣味 レジャー

2011 (平成23) 年  
12月1日  
北日本新聞